

書評

砂白金—その歴史と科学—

弥永芳子著
文葉社発行
A5版 233p.
2006年4月刊行
定価 3800円(税別)
ISBN 4-4902254-12-3

著者の弥永芳子女史は、私設の「弥永北海道博物館」の館長であり、貨幣史、砂金掘りの研究をされている方です。北海道で産出する「砂白金」について関心をもたれ、多くの試料を収集されています。この本には、その長年の研鑽の成果が示されています。

砂白金とは、白金族元素鉱物[ルテニウム(Ru)、ロジウム(Rh)、パラジウム(Pd)、オスミウム(Os)、イリジウム(Ir)、白金(Pt)]が砂状になったもので、砂金のように砂礫とともに堆積しています。日本では唯一北海道で産出しています。

目次は以下のようになっています。

- 第一章 世界の砂白金
 - (一) 砂白金と白金族
 - (二) プラチナの発見
 - (三) テーベの小箱
 - (四) インディオの冶金術
 - (五) 砂白金の融解に成功
- 第二章 世界の砂白金と白金鉱山
 - (一) 砂白金産地
- 第三章 北海道の地質
 - (一) 北海道の地質
 - (二) 中央部北海道の特徴
- 第四章 蝦夷地の砂金
 - (一) 松前藩の砂金
 - (二) 蝦夷キリシタン
 - (三) 砂金掘りのキリシタン
 - (四) 松前藩の採金禁止
 - (五) 明治のゴールドラッシュ
 - (六) 東洋のクロンダイク
- 第五章 国産万年筆の誕生
 - (一) 国産万年筆の誕生

- (二) 国産万年筆の海外進出
 - (三) 戦時中の万年筆業界
 - (四) 造幣局札幌出張所
 - (五) 戦後の万年筆
- 第六章 北海道の砂白金
 - (一) 北海道の砂白金
 - (二) 砂白金と島田商店
- 第七章 砂白金の分析化学
 - (一) 砂白金の性質
 - (二) 砂白金の分析
 - (三) 随伴鉱物
- 第八章 砂白金の採取法
 - (一) 伝統的な採取法
 - (二) 採掘の道具
- 第九章 戦時下の砂白金採取
 - (一) 白金の統制
 - (二) 帝国砂白金有限会社の設立
 - (三) 朝鮮人労務者とタコ部屋
 - (四) 33年目の追悼

北海道で砂白金が採取されるようになってからの歴史について、特に五、六、九章において、様々なエピソードが記されています。国産の万年筆がつくられていく過程で、どのようなことが起こっていたのか、砂白金とそれを取り巻く人々の動きは、興味深いものです。歴史的な話が、本の中で前後するので、時間的な経過に沿ってまとめられた方が良かったのではないかと思います。七章では、砂白金の分析結果が数多く示されていますが、分析結果からなにが見えてくるのかということについてもう少し記述があると良かったのではないかと思います。

北海道の砂白金の地質学的価値については、中川(1994)がわかりやすく紹介しています。また、弥永北海道博物館については、中川(1996)により紹介されています。

文 献

- 中川 充(1994):砂白金の宝庫—イリジウムの時代。地質ニュース, 480, 23-26.
中川 充(1996):日本一の砂白金塊がある弥永北海道博物館。地質ニュース, 506, 60-62.

(地質標本館 目代邦康)